

2021年9月9日 全8頁

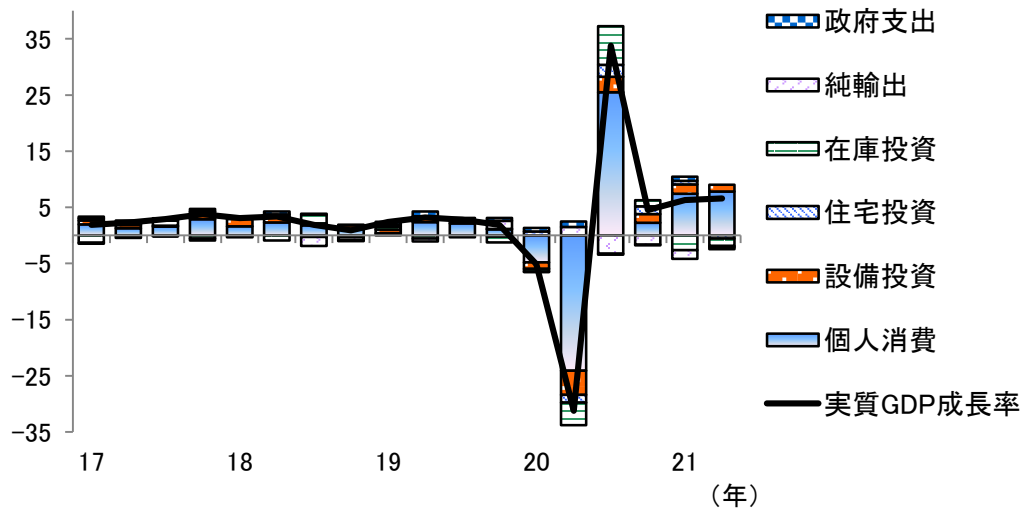
アメリカ経済グラフポケット (2021年9月号)

2021年9月7日発表分までの主要経済指標

ニューヨークリサーチセンター 上野 まな美
研究員 矢作 大祐

実質GDPの推移

(前期比年率、%、%pt)



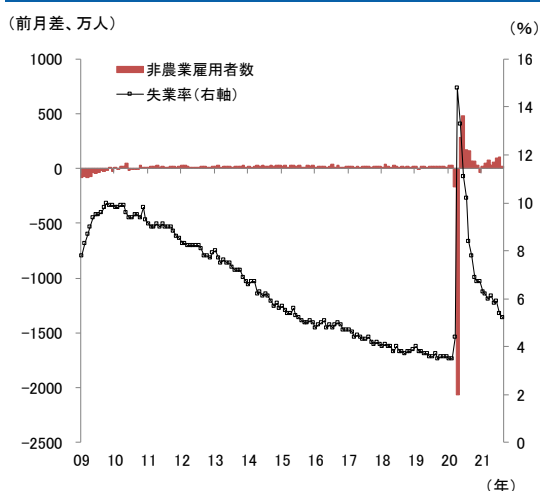
(前期比年率、%、%pt)	2019		2020				2021	
	7-9	10-12	1-3	4-6	7-9	10-12	1-3	4-6
国内総生産	2.8	1.9	-5.1	-31.2	33.8	4.5	6.3	6.6
個人消費	3.2	1.7	-6.9	-33.4	41.4	3.4	11.4	11.9
設備投資	2.9	-1.7	-8.1	-30.3	18.7	12.5	12.9	9.3
住宅投資	3.6	1.1	20.4	-30.7	59.9	34.4	13.3	-11.5
政府支出	2.1	3.0	3.7	3.9	-2.1	-0.5	4.2	-1.9
輸出	-0.8	1.2	-16.3	-59.9	54.5	22.5	-2.9	6.6
輸入	-1.1	-8.5	-13.1	-53.1	89.2	31.3	9.3	6.7
寄与度								
個人消費	2.1	1.1	-4.8	-24.1	25.5	2.3	7.4	7.8
設備投資	0.4	-0.2	-1.1	-4.3	2.7	1.6	1.7	1.2
住宅投資	0.1	0.0	0.7	-1.4	2.2	1.3	0.6	-0.6
在庫投資	-0.3	-1.0	-0.5	-4.0	6.8	1.1	-2.6	-1.3
政府支出	0.4	0.5	0.6	1.0	-0.2	-0.1	0.8	-0.3
輸出	-0.1	0.2	-2.0	-8.3	4.6	2.1	-0.3	0.7
輸入	0.2	1.3	1.9	9.9	-7.9	-3.7	-1.3	-0.9

(出所) BEA, Haver Analyticsより大和総研作成

雇用環境¹

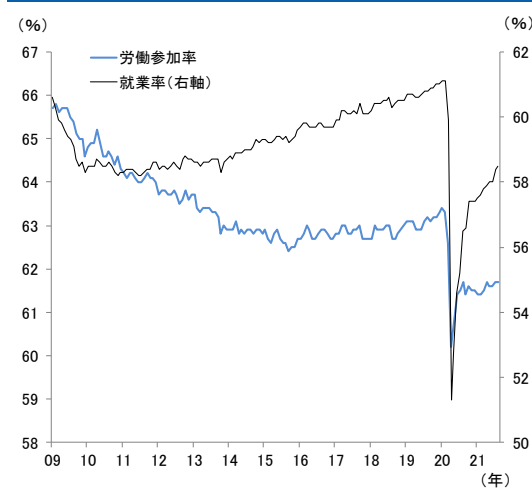
- ◆ 8月の失業率は5.2%となり、前月から0.2%pt低下した。失業保険の給付増額の期限到来を控え、長期失業者が職場復帰を進めたものとみられ、2ヵ月連続で改善した。
- ◆ 8月の非農業部門雇用者数の前月差は23.5万人増となった。新型コロナウイルスのデルタ株の感染拡大により、改善していたサービス部門における雇用者数の伸びが大幅に落ち込み、2020年8月以来の高い伸びとなった前月から伸び幅が急減速した。
- ◆ 非農業部門雇用者数の前月差の6ヵ月平均は65.3万人増となった。

非農業雇用者数と失業率



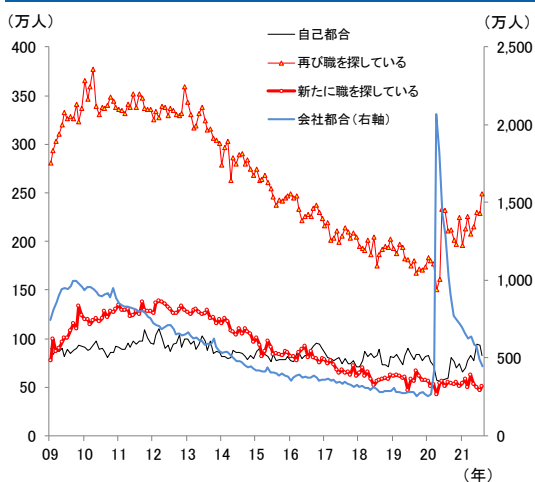
(出所)BLS, Haver Analyticsより大和総研作成

労働参加率と就業率



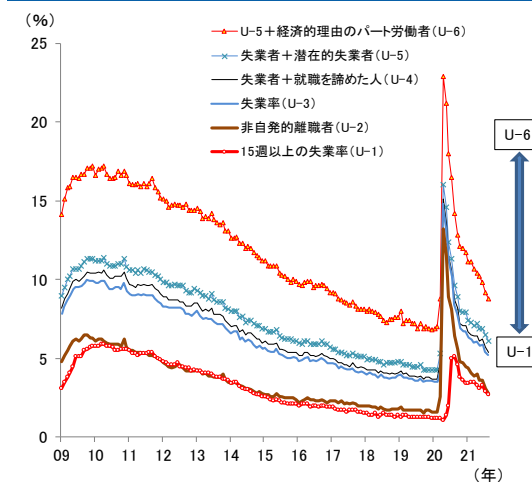
(出所)BLS, Haver Analyticsより大和総研作成

理由別失業者数



(出所)BLS, Haver Analyticsより大和総研作成

定義別失業率



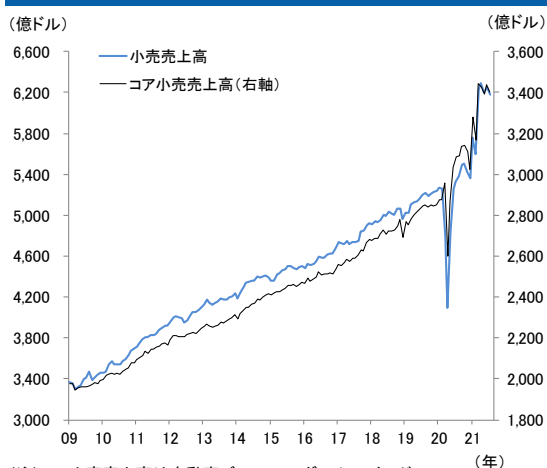
(出所)BLS, Haver Analyticsより大和総研作成

¹ 大和総研レポート ニューヨークリサーチセンター 矢作大祐「雇用者数は前月差+23.5万人と急減速」(2021年9月6日)参照。 https://www.dir.co.jp/report/research/economics/usa/20210906_022504.html

個人消費

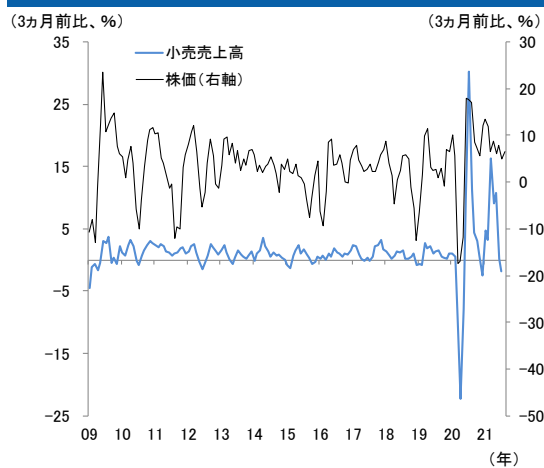
- ◆ 7月の小売売上高は前月比1.1%減となった。政府の給付金による消費押し上げ効果が低下したものとみられ、自動車の売上減などが響き、減少に転じた。コア小売売上高は同1.0%減となり、減少に転じた。
- ◆ 8月の自動車販売台数は前月比11.1%減少し、年率換算で1,309万台となった。長引く半導体不足に加え、新型コロナウイルスのデルタ株の感染拡大による供給網の混乱などが重なり、生産遅延で在庫不足が悪化し、4ヵ月連続で減少した。
- ◆ 8月のロイター/ミシガン大消費者センチメントは、前月の81.2から70.3へと大幅に低下した。新型コロナウイルスのデルタ株の急速な感染拡大やインフレ懸念などが消費者マインドを押し下げ、パンデミック以降で最低水準であった2020年4月を下回り、2011年12月以来の低水準となった。

小売売上高の推移



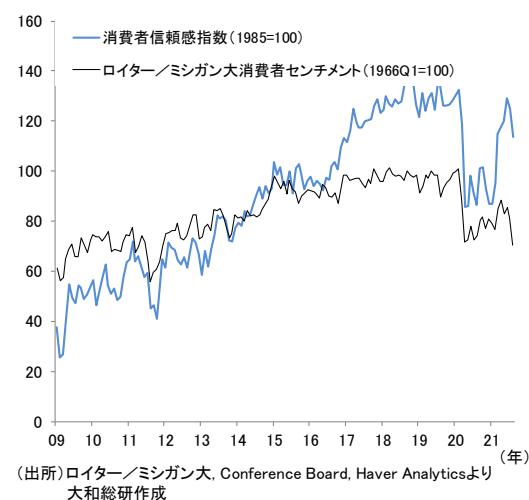
(注)コア小売売上高は自動車ディーラー、ガソリンスタンド、建材・園芸、飲食サービスを除く。
(出所) Census, Haver Analyticsより大和総研作成

消費と株価



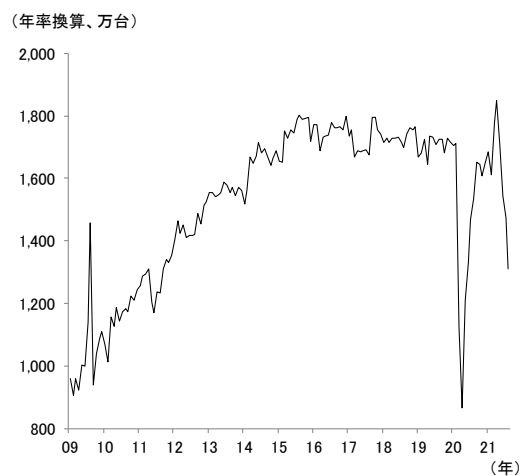
(注) 株価はWilshire5000。
(出所) Census, Dow Jones, Haver Analyticsより大和総研作成

消費者マインド



(出所) ロイター/ミシガン大, Conference Board, Haver Analyticsより大和総研作成

自動車販売台数



(出所) Autodata, Haver Analyticsより大和総研作成

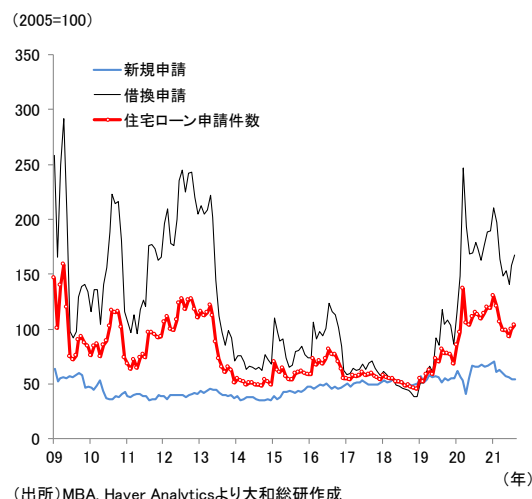
住宅市場

- ◆ 7月の新築住宅着工件数（一戸建てと集合住宅を含む）は、前月比7.0%減の年率換算153.4万戸となった。資材の高騰や労働者不足などの影響により着工が控えられ、3ヵ月ぶりに減少した。
- ◆ 7月の中古住宅販売件数（一戸建て）は、前月比2.7%増の年率換算528.0万戸であった。在庫不足が改善したことなどが押し上げ要因となり、2ヵ月連続で増加した。
- ◆ 7月の新築住宅販売件数（一戸建て）は、前月比1.0%増の年率換算70.8万戸となった。人口流入の多い西部や南部での販売増により、4ヵ月ぶりに増加に転じた。
- ◆ 6月のケースシラー住宅価格指数（20都市）は、前月から1.8%上昇した。記録的に低水準なローン金利が続く中、住宅需給のひっ迫が住宅価格を押し上げ、伸びが加速している。

住宅販売（一戸建て）



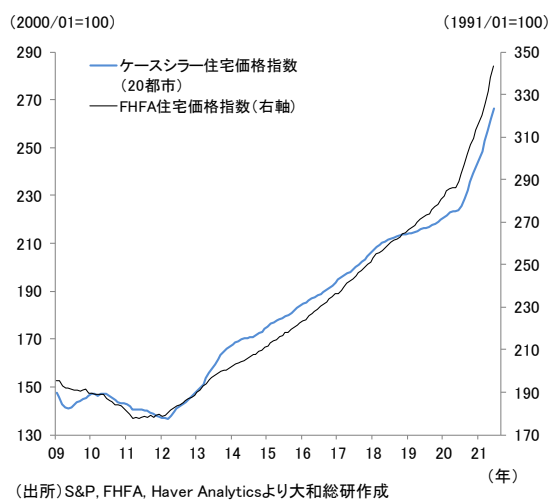
住宅ローン申請件数



住宅着工と建設業者の景況感



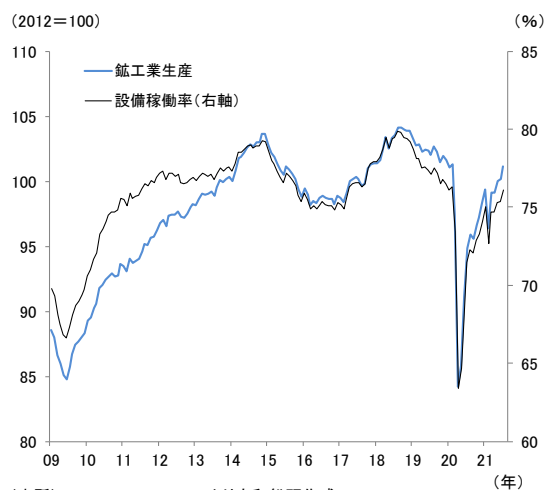
住宅価格



企業動向

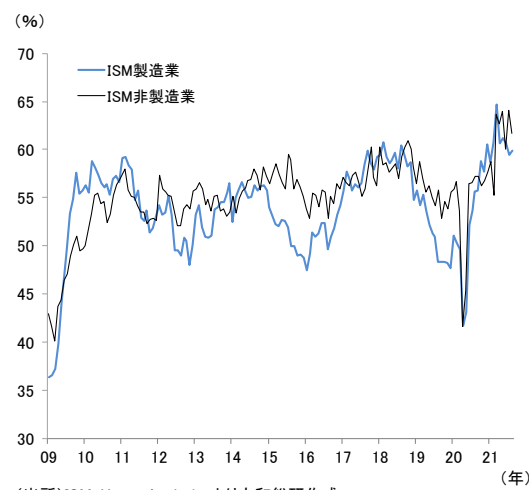
- ◆ 7月の鉱工業生産指数は前月比0.9%上昇し、3月以来の高い伸びとなった。自動車・同部品の生産が急増し、生産指数全体の約75%を占める製造業（SICベース）が同1.4%上昇したほか、鉱業も上昇し、全体の指数を押し上げた。
- ◆ 7月の国防・民間航空機を除く資本財受注（コア資本財受注）は、前月比0.1%増となった。資材や労働力不足が懸念されるものの、経済回復に伴う製造業の堅調さが持続し、5ヵ月連続で増加した。
- ◆ 8月のISM製造業指数は前月から0.4%pt上昇の59.9%となった。新型コロナウイルスのデルタ株の感染拡大や、原材料や労働者不足が懸念されるものの、堅調な需要に支えられ、3ヵ月ぶりに上昇に転じた。非製造業指数は前月から2.4%pt低下の61.7%となった。前月からは低下したものの、消費がモノからサービスセクターへとシフトする中、6ヵ月連続で60%超の高水準となった。

鉱工業生産と設備稼働率



(出所)FRB, Haver Analyticsより大和総研作成

企業の景況感



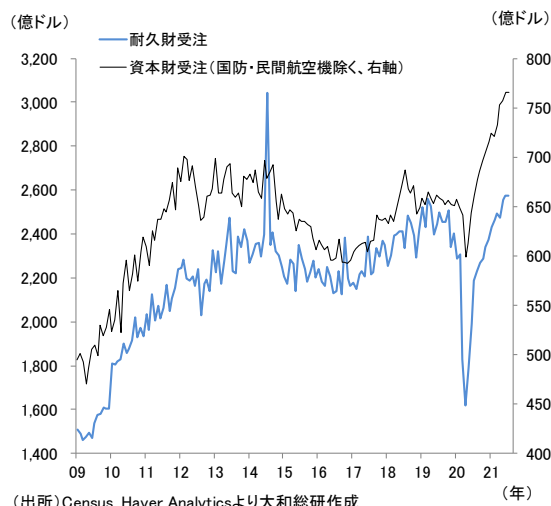
(出所)ISM, Haver Analyticsより大和総研作成

製造業の出荷・在庫



(出所)Census, Haver Analyticsより大和総研作成

耐久財受注

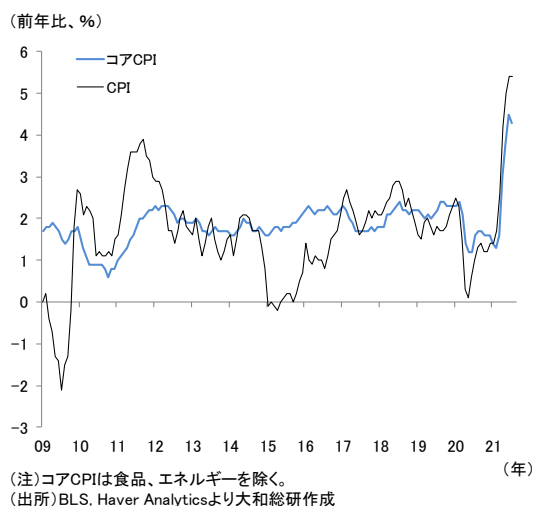


(出所)Census, Haver Analyticsより大和総研作成

物価動向

- ◆ 7月のCPI（消費者物価指数）は前年比5.4%上昇し、2008年8月以来の高い伸びを記録した前月と同水準の伸びとなった。コアCPIは同4.3%上昇し、1991年11月以来の高い伸びを記録した前月を下回り、5ヵ月ぶりに伸びが減速した。
- ◆ 8月の2年先期待インフレ率は1.88%となり、5ヵ月連続で前月から上昇し、2019年5月以来の高水準となった。5年先期待インフレ率は1.55%で、前月と同水準であった。
- ◆ 8月末のWTI原油先物価格は68.50ドル/バレルとなり、7月末の73.95ドル/バレルから低下した。新型コロナウイルスのデルタ株の感染拡大による世界的な需要減が懸念され、月末値は5ヵ月ぶりに下落した。

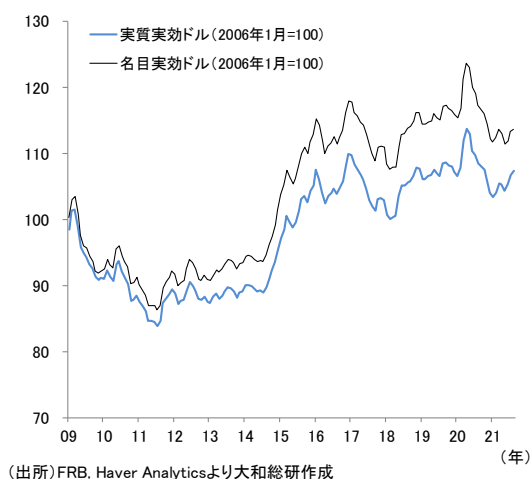
消費者物価指数



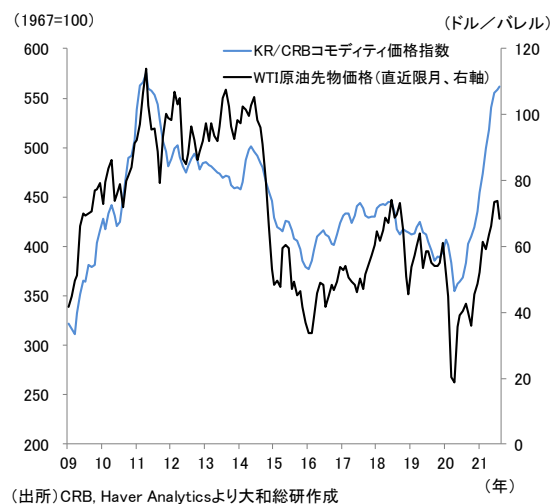
期待インフレ率



実効為替レート(ブロード)



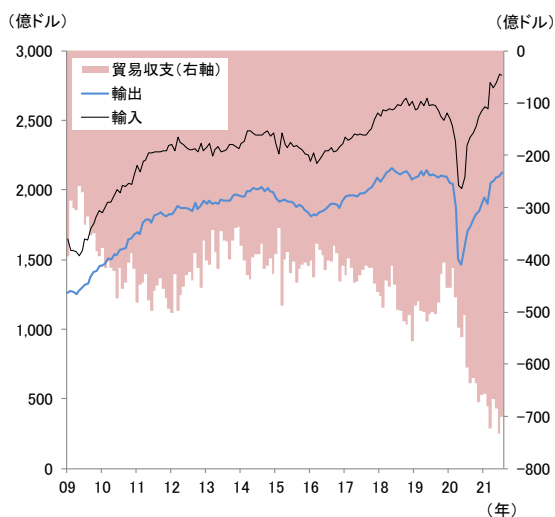
コモディティ価格



輸出入・経常収支

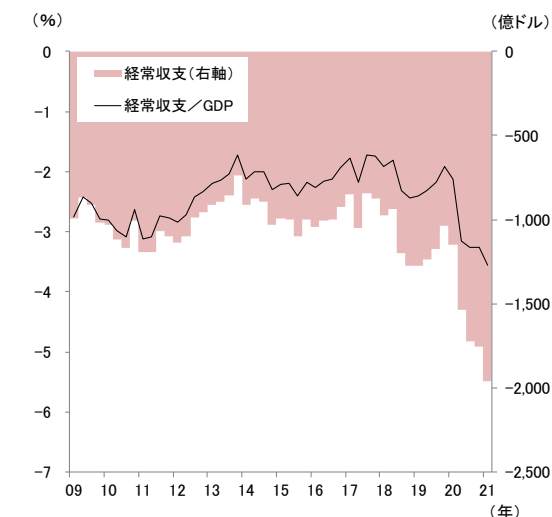
- ◆ 7月の貿易収支（財・サービス）は、輸出が前月比1.3%増加し、輸入は同0.2%減少した。この結果、貿易赤字は同4.3%減の701億ドルとなり、3ヵ月ぶりに減少した。
- ◆ 輸出入（財）を商品別に見ると、輸出ではその他産業機械などの資本財が主に増加し、輸入においてはおもちゃ、ゲーム、スポーツ用品といった消費財の減少が目立った。
- ◆ 地域別（財）では、欧州向けの輸出が前年比18.2%増、日本向けが同25.4%増と、いずれも4ヵ月連続で二桁台の大幅増となった。また、中国向けも同29.0%増となり、2020年4月以来増加が続いている。輸入に関しては、欧州からの輸入が同18.3%増、日本からは同48.6%増と、ともに4ヵ月連続で二桁の伸びとなった。一方、中国からの輸入は同0.7%減と、2020年8月以来の減少となった。

貿易収支動向



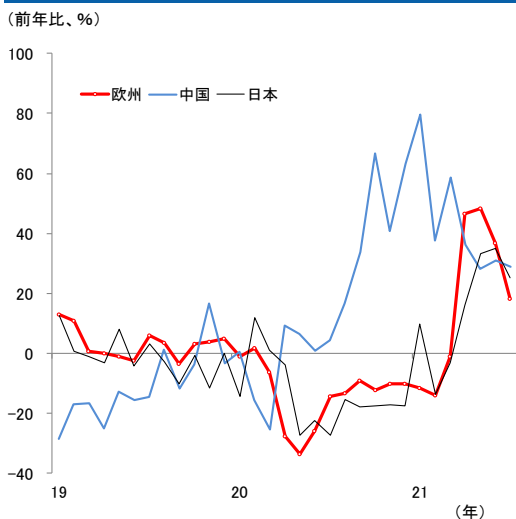
（出所）Census, Haver Analyticsより大和総研作成

経常収支の推移



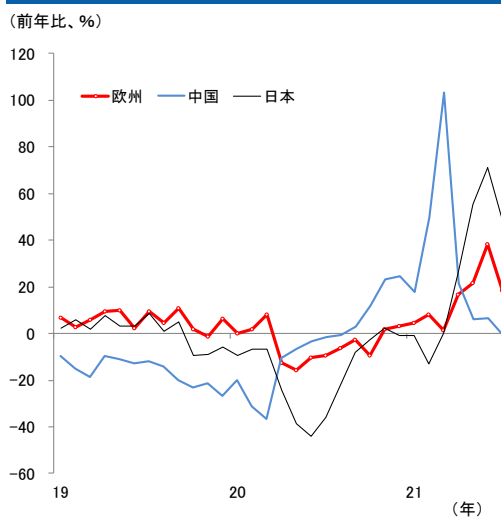
（出所）BEA, Haver Analyticsより大和総研作成

国・地域別輸出動向



（出所）Census, Haver Analyticsより大和総研作成

国・地域別輸入動向

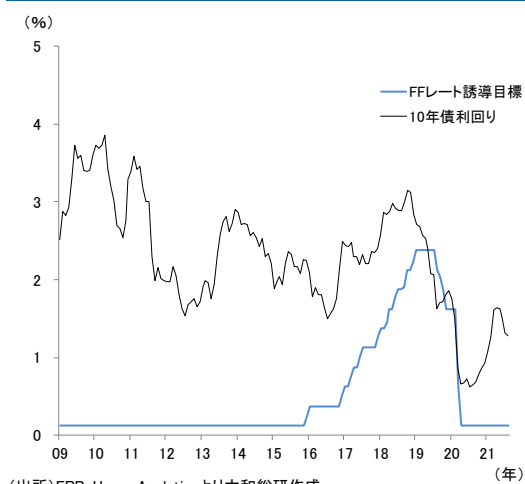


（出所）Census, Haver Analyticsより大和総研作成

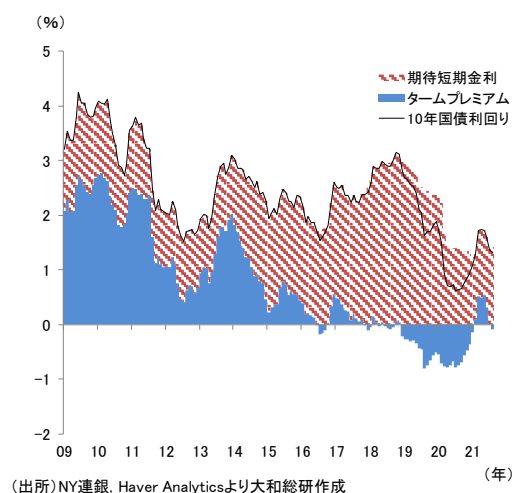
金融・財政

- ◆ 7月のFOMC（連邦公開市場委員会）において、政策金利であるFF（フェデラルファンド）レートの目標レンジが0.00-0.25%で据え置かれ、国債などの購入規模を変更しないことが決定された²。また、8月のジャクソンホール会議で、パウエルFRB議長が量的緩和の段階的縮小を年内に開始することが適切であると初めて言及した。9月1日の週のFRBの資産残高は平均で約8兆4,000億ドルであった。
- ◆ 8月の長期金利（10年債利回り）の月中平均値は1.28%となった。新型コロナウイルスのデルタ株の感染拡大による景気回復の遅れが懸念されたことなどから低下し、月中平均値は4ヵ月連続で低下した。
- ◆ 連邦政府の財政収支（12ヵ月平均）は赤字幅が高水準で推移している中、4ヵ月ぶりに拡大した。

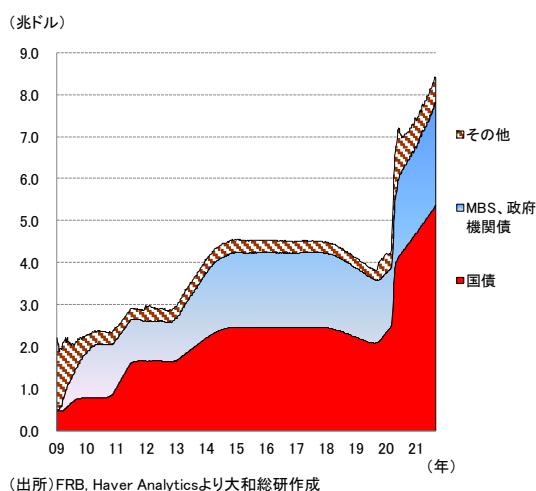
政策金利・長期金利



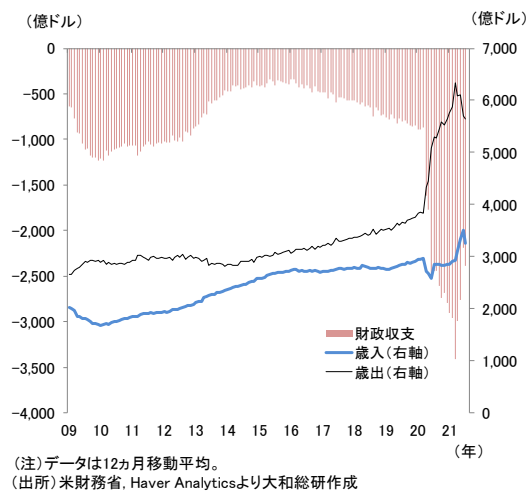
タームプレミアム(10年)



FRBの資産構成



連邦政府の財政収支



² 大和総研レポート ニューヨークリサーチセンター 矢作大祐「FOMC テーパリング議論の開始を宣言」(2021年7月29日)参照。https://www.dir.co.jp/report/research/economics/usa/20210729_022431.html